## ３．全国の一般地域住民における最近の循環器疾患発症率： NIPPON DATA2010

研究分担者　門田　文　（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター　准教授）
研究分担者　大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座　教授）
研究協力者　原田亜紀子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター医療統計学部門　准教授）
研究協力者　高嶋　直敬（京都府立医科大学大学院医学研究科・地域保健医療疫学　教授）
研究協力者　有馬　久富（福岡大学医学部衛生学公衆衛生学講座　教授）
研究協力者　二宮　利治（九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野　教授）
研究協力者　秦　淳　　（九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野　准教授）
研究協力者　寶澤　篤　（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野　教授）
研究協力者　中村　幸志（琉球大学大学院医学研究科衛生学・公衆衛生学講座　教授）
研究協力者　東山　綾　（和歌山県立医科大学医学部衛生学講座　准教授）
研究協力者　大澤　正樹（特定医療法人盛岡つなぎ温泉病院　診療部長）
研究協力者　久松　隆史（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野　准教授）
研究協力者　鳥居さゆ希（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　特任助教）
研究協力者　岡見　雪子（群馬大学食健康科学教育研究センター　講師）
研究協力者　近藤　慶子（滋賀医科大学ＮＣＤ疫学研究センター予防医学部門　講師（学内））
研究協力者　宮本　恵宏（国立循環器病研究センターOIC（ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ）センター長）
研究分担者　岡村　智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学　教授）
顧　問　　上島　弘嗣（滋賀医科大学ＮＣＤ疫学研究センター　特任教授）
研究分担者　岡山　明　（合同会社生活習慣病予防研究センター　代表）
研究代表者　三浦　克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　教授）

【背景】循環器疾患の発症率は生活習慣の変化や危険因子に対する治療の影響を受ける。近年のわが国の循環器疾患発症率の動向を把握する為には、都市部・郡部を含む全国の一般地域住民を対象とした最新のコホート研究を用いて循環器疾患発症率を検討する必要がある。

【目的】全国の一般地域住民が参加するコホート研究において最近の循環器疾患発症率を明らかにし、動向を把握する。

【方法】NIPPON DATA2010 は無作為抽出された全国 300 地区で実施された平成 22 年国民健康・栄養調査参加者のコホート研究で、循環器疾患などの発症追跡調査を継続して実施している。郵送等による追跡調査にて発症が疑われた症例について医療機関情報を入手し、イベント発症有無を確認した。死因は人口動態統計情報と照合した。ベースライン時に脳卒中および心筋梗塞既往歴のある者を除く 40 歳以上の男女 2251 人について、9 年間追跡における循環器疾患発症

率を算出した。

【結果】総死亡 231 件うち循環器疾患死亡 47 件を確認した。発症数は脳卒中 58 件(2.6%), 心筋梗塞 10 件(0.4%), 冠動脈血行再建術 36 件(1.6%), 心不全 32 件(1.4%)であった。発症率(1000 人年対)は脳卒中 2.98 (うち脳梗塞 2.51), 心筋梗塞 0.51, 冠動脈血行再建術 1.84, 心不全 1.63 であった。いずれも男性が女性より高値であった。40-79 歳の脳卒中・心筋梗塞複合の年齢調整発症率は 2.44(1000 人年対)（平成 27 年モデル人口）であった。

【考察】近年の発症率は過去の発症率と比較して低下しているが、2000 年頃をベースラインとした発症率の報告と比較するとほぼ同等であると考えられた。

【結論】40-79 歳の脳卒中・心筋梗塞複合の年齢調整発症率は 2.44(1000 人年対)であった。

**第 34 回日本疫学会学術総会（2024.1.31～2.2 大津市）**